

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【縦割り班による児童集会】</p>	<p>異学年の交流で全校児童を縦割りで6つの班に分け、班ごとに自由遊びや班対抗ゲームの集会などを行っている。自由遊びでは、6年生が中心となって、自分たちで事前に遊びを決めて鬼ごっこやドッジボールなどの遊びを楽しんでいる。また、児童集会では、計画委員会の児童が中心となって、じゃんけんゲームや玉入れなどを班対抗で行っている。</p> <hr/> <p>成果</p> <p>異学年での活動のため、高学年は低学年のサポートをしたり、低学年でも話合いの中で意見を発表したりすることができ、学年を超えてたくさんの友だちと交流できる。また、6年生は自分たちも楽しみながら1年生のお世話をするため、最高学年としての意識が見られるようになった。</p> <hr/> <p>課題</p> <p>縦割り班活動は、月に1回程度キッズタイムとして設定しているが学校行事や天候の関係などで延期や中止になってしまうことがある。児童は楽しみにしているが、時間を確保することが難しい。</p>
<p>2 実践2 【JRC・人権集会】</p>	<p>毎年、JRC 結団式を含めた人権集会を全校児童で行っている。福祉・環境委員会が中心となり、「人権」という言葉の意味を確認する場となっている。また、アンリーデュナンのことを知り、福祉に対する理解を深めている。集会の最後には、それぞれのクラスが4月に決めたクラス目標を発表し、共有している。どのクラスの目標も自分や相手のことを考えた目標を設定している。</p> <hr/> <p>成果</p> <p>JRC 結団式で、アンリーデュナンの活動を知り、自他の立場を考えながら、思いやりの気持ちをもって相手に接することの大切さを学ぶことで、互いに助け合い支え合っていこうという気持ちが高まってきている。また、相手の立場になって考え行動することで喜びを味わうことができたなど、それぞれの自己有用感が高まってきている。</p> <hr/> <p>課題</p> <p>人権教育は、学校の教育活動全体で行われるものであり、日常生活に生かされていくものである。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことによって互いの人間関係が深まり、助け合いや思いやりの心が育つ。そのために、教職員の人権に対する共通理解を図り、児童の人権感覚の育成を図っていく必要があると思われる。</p>